

第九回 SATOU フォーラム

会場は前回と同じです。下記の地図参照

URL: <https://satou-forum.jp> (ホームページ: リニューアル)

(過去の講演内容の概要又は資料もご覧になれます。)

フォーラムの講演そして交流会も併せて、出欠票に記載の上、ご返送ください。

(FAX 又は PDF にてメールで送付ください。)

記

日時: 2020年7月14日(火) 16:00~19:00 (受付開始は15:50より)

会場: サテライト新宿南口駅前 (アットビジネスセンター 901号室)

渋谷区代々木2-8-3 新宿GSビル9階

- >15:50~16:00 受付
- >16:00~16:15 会員会社情報発信
- >16:15~18:00 [講演] (質疑応答時間あり)

**「どうなるポストコロナ?大変革?余り変わらない?
—コロナがもたらす働き方の多様化。派遣業務は在宅勤務化へシフト!
本多記者による最前線レポート」**

講師: 本多 信博 先生 (住宅評論家・住宅新報顧問)

- >18:00~19:00 交流会 ビールと軽いつまみで情報交換タイム

[今後のSATOUフォーラムの予定]

第十回 2020年9月8日(火) 演題・講師未定



新宿駅南口徒歩1分

西新宿1丁目の交差点で甲州街道を横断

【本田 信博（ほんだ・のぶひろ）先生 略歴】

住宅評論家

住宅新報メディアグループ顧問

1949年生まれ。長崎県平戸市出身。

1973年3月 早稲田大学商学部卒業

1973年 東京ニュース通信社入社

1986年 住宅新報社に転職

1997年 住宅新報編集長

2005年 住宅新報編集主幹

2008年 住宅新報論説主幹

2014年 住宅新報社特別編集委員兼論説主幹

2018年7月 独立、現在に至る

日本不動産ジャーナリスト会議会員

日本居住福祉学会会員

著書；「大変革・不動産業」（住宅新報社・共著）

「ミサワ定期借地」（創樹社）

「一途に生きる！」（住宅新報社）

「BESSってなんだ？」（アールシーコア社）

「百歳住宅」（プラチナ出版）

「住まい悠久」（プラチナ出版）

論文；週刊エコノミスト、業界団体機関誌など多数

講演；業界団体、NPO法人、JAなど

<事務局>

プラチナ出版株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座 1-13-1

ヒューリック銀座一丁目ビル7F

事務局：高橋・今井

Tel: [03-3561-0200](tel:03-3561-0200) Fax: 03-3562-8821

E-mail: info@pulatinum-pub.co.jp

コロナは、働き方にも様々な多様化をもたらしている。

足で稼ぐ営業の典型である証券や生保は、緊急事態解除後やっと会社から対面営業の許可が出た。会ってみるとロ々にこの間の「難行苦行?」を訴えた。

顧客との面談禁止、営業時間の短縮、時差出勤、週休三日制、在宅勤務、テレワーク等の非常時対応の中で、**テレワーク**が焦点の一つとして急速に浮上してきた。

テレワークの進展・定着こそが、在宅勤務等多様な働き方を可能にする基本インフラのひとつである。

IT音痴の小生は、テレワークは、“テレフォンによるなら俺でもやれる”と思っていた位だから語る資格はないが、経営手法として、IT関連企業はもちろん、それ以外の一般大企業も当然として、中小企業にとっても益々無視しえない時代になった。

テレワークは、会社と社員の間でのコミュニケーションがより早く、透明性をもってできるという。とは言ってもリアルな集まりは欠かせないという意見も強い。様々な人と人の接点を持つことにより生まれる仕事のアイデアや人脈づくり、真のコミュニケーションは、テレワークでは難しいというのだ。要するに今後は前者のみでなく、後者もうまく組み合わせる必要があるだろう。

会社の業種・営業内容、本人に期待される職務内容によって、リアルのコミュニケーションの必須度は異なる。テレワークのみでは、オフィスワークに比して、一般的に生産性が下がるそうだ。

リアルで補完し、生産性の維持と創造力や開発力の向上を目指すことになるだろう。

例えば、**派遣業務**の場合は、後者は、ほとんど必要ない場合が多いと思われる。そもそも派遣という働き方を積極的に選ぶ大きな理由は、「勤務時間や勤務地などの条件を選べる」ことである。

育児や介護などの制約を抱える人も少なくない。このため**在宅勤務**を希望する人は、従来から多かった。更に派遣業務それ自体、明確にほかの業務から個別に切り出されており、もともとテレワークと相性が良い。

それなのに、コロナ以前は、特段大きく在宅勤務が進まなかったのは、なぜか?

法的シバリのほか主としてハード面のコスト増がハードルになっていたからである。しかし、今回の騒ぎによりテレワークを駆使した在宅勤務を余儀なくされ、関係者全員が「意外とイイネ」とその利便性を認識したのではないか。

なお、サテライトオフィスのニーズは、在宅勤務化につれ増えよう。

コロナに強制された共同体験が、**派遣業務の「在宅勤務化」へのシフトを早めた**、ということになりそうだ。

さて、「どうなるポストコロナ?」は、まだ進行中であり、既に結果が現れているものも、また、これから中長期的に影響が現れるものもあろう。

ここで忘れてならないのが、「**どうするポストコロナ?**」である。

具体的にひとつだけ挙げれば、「**医療の安全保障**」である。

マスク・防護服等の医療物資、人口呼吸器等の医療機器を、わが国は100%近く海外に依存していた。物資は中国、機器は米国からの輸入が多いようだが、非常時輸入が止まれば、医療崩壊を招く。「国民の生命を守る」ことができない。今回その可能性が、取り沙汰されていた。

これらを早急に「**国際政治の戦略物資・機材**」と位置付け、国産化や公的備蓄を図る等の基本政策が必要だ。それとも、医療費が増えてしまうのが嫌だから、「**命捨てますか**」。

第九回 SATOU フォーラム 参加申込書

下記に記載して、参加費をお振込みください。(申込書は FAX 又は PDF にてメールで送付ください)
よろしくお願い申し上げます。

フォーラム参加費: 6,000円(税込)(交流会費 1,000円含む)

交流会参加 交流会不参加

お名前			
企業名			
部署名・役職			
電話番号		FAX 番号	
メールアドレス	@		

*お忙しい中恐れ入りますが、**7月8日(水)頃まで**にご返信をお願いできればと存じます。

<事務局> (注 振込先が変更になりました)

プラチナ出版 担当: 高橋 090-7818-9517

〒104-0061 東京都中央区銀座1-13-1

ヒューリック銀座一丁目ビル7F

[Tel:03-3561-0200](tel:03-3561-0200) Fax:03-3562-8821

E-mail: info@platinum-pub.co.jp

振込先: 三菱UFJ銀行 虎ノ門中央支店 普通 5384697

口座名義: 佐藤 一雄